



公共工事品質確保に関する議員連盟総会（第16回）

測量設計業の現状と課題

令和5年11月8日

一般社団法人 **全国測量設計業協会連合会**



測量設計業の現状と課題

あるべき姿【地域の守り手】

測量設計業は公共事業実施に当たって常に最初に必要となる「はじまりの仕事」であり、災害時には被災状況の把握、復旧の初動を担う、地域の守り手となる役割を果たしています。

問題点【担い手不足】

しかしながら、近年、高齢化による担い手不足が顕在化しており、地域を熟知した地元測量設計業の継続・継承が困難となっています。

課題

1. 今後の測量設計業の経営の安定・地域の守り手の維持

- (1) 測量技術者単価の引上げ等やそれをおり込んだ予算の拡大と、測量に関する公共事業も発注量の確保が必要です。
- (2) 若年層の人材確保に向け、測量法に基づく資格制度の改革が必要です。

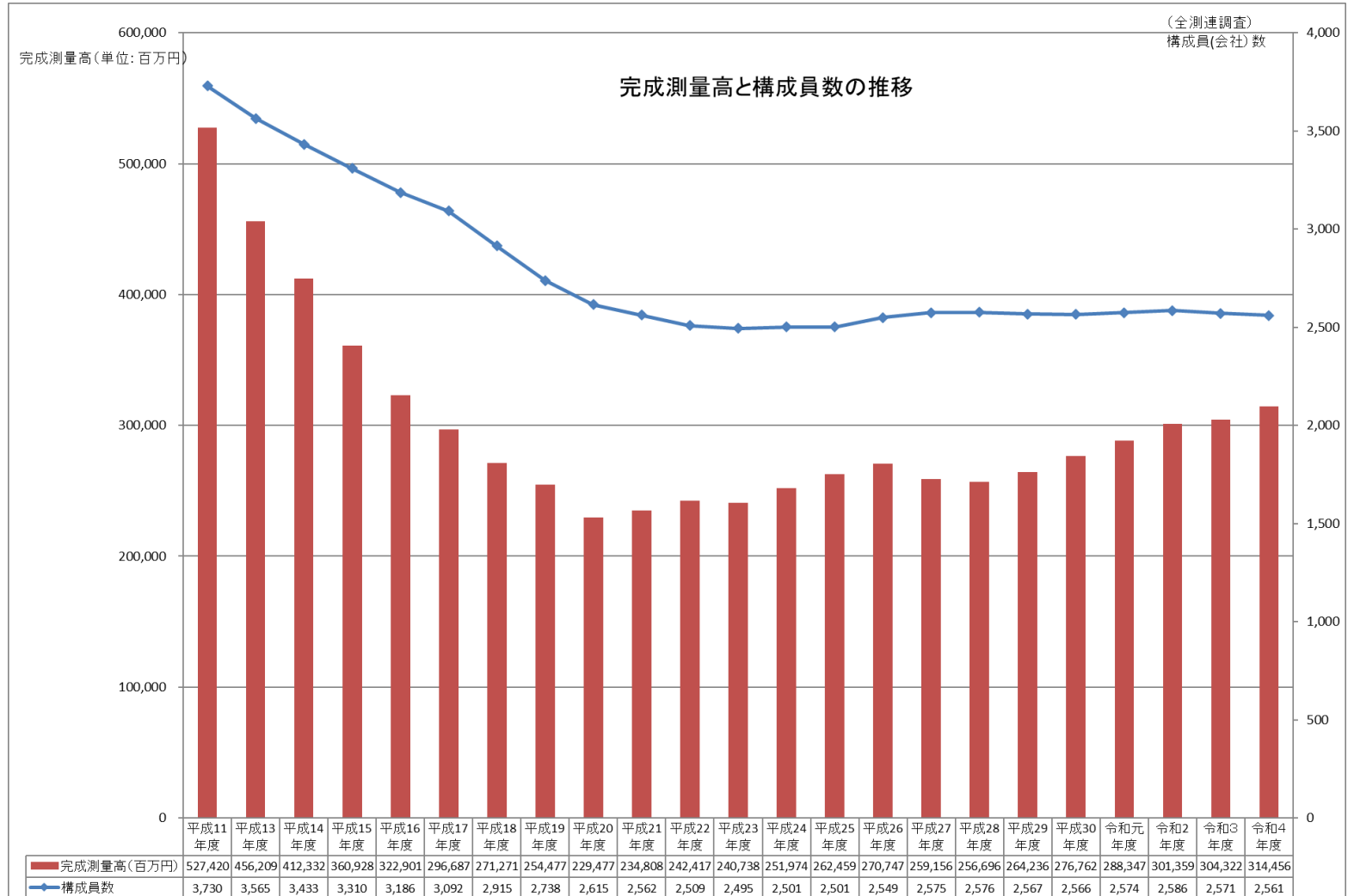
2. 新技術の活用とDXへの対応

- (1) 最新機材等の導入コストが高額であるため、補助金等の中小企業等支援措置の拡充が必要です。
- (2) 最新機材等の活用機会が限定的で、設備投資の回収が困難であるため、地域レベルでの関連業務の発注量の増加に向けた、地方公共団体のインフラ分野のDXの促進に対する財政的な支援が必要です。



完成測量高と構成員数の推移

完成測量高、構成員数は平成11年度をピークに減少傾向にあり、近年完成測量高は持ち直しているものの、構成員数は減少傾向に歯止めがかかっているとは言えない。





全測連構成会員年代別比較（3年間）

技術者数は若手（20代、30代）の構成員の割合が40代の半分程度となっており、このままでは、高齢層のリタイアに伴い、深刻な技術者不足になる可能性がある。

